



割礼、神との契約



創世記に「生まれてから8日目に割礼を受けなければならない。それによってわたしの契約はあなたの体に記されて永遠の契約となる」と書かれています。

旧約聖書の律法で、割礼は神との契約のしるしでした。神は、すべての人を神との交わりのある生活へと導こうとされています。この当たり前に思える概念は、救いについての教えではごく基本的なものです。神と人との関係について論じなくても、契約という考え方は人の社会的、法的な生活の中でなくてはならないものです。それらは通常相互的であるとされています。しかし現実には、私たちが抱える人間関係のその多くが、実はお互いのためになっていない、という結果になりがちです。友だち同士の関係でも、また家族の中でさえ、お互いの利益になっていなかったり、お互いへの言葉や行動が足りなかったり、相互の価値観や、お互いへの愛や配慮、信頼、尊敬の念が足りない、ということもままあります。人間関係のために何かを考えていたとしても、不幸にして、もしそれがお互いのためでないなら、それは実現されることはないのです。片方は拒絶されたのではと困惑し、相互理解の欠如からくる、裏切られたという思いで打ちのめされることとなります。とても奥深く、配慮に満ちて、慰めとなるものを、どのように感じ取ればよいか私たちが思いをめぐらせたとしても、相手の人が全く感じる事がなければ、その思いは台無しになるのです。どうしてこんなことになるのでしょうか。真実は単純明快で、私たちが何を感じようとも、関係がお互いのためでなければ、それは失望に終わるであろうということです。

契約の概念の旧約聖書への導入は新しいことではありません。これはイスラエルの宗教的な概念すべての始まりであり、自然の力を崇拝していた周りの宗教全てとは意を異にしました。エジプトから救い出された人々はシナイ山でヤハウェーと契約を交わしました。こうしてヤハウェーへの崇拝が民族の宗教となりました。ここでいう契約とは、人と人之间にあるような平等な約束事とは全く違います。しかし、救いの歴史の中でヤハウェーは、絶対的な自由がありながら、契約を交わした民に対して忠実であろうとされたのです。





燃える柴を見せることで、ヤハウェーはモーセにその名前とイスラエルについての計画を明かしました。神は、当時奴隷の地であったエジプトからイスラエルの民を救い出し、その民を自由の地であるカナンに住ませたいと願っておられました。なぜなら、イスラエルは神の民だからです。神はイスラエルにその祖先たちと約束された土地を与えなかったのです。民をエジプトからうまく逃れさせたことで、神は、御自分が主人であり、自らの意志を民に負わせることができることを示されました。そして、解放された民、旧約のイスラエルの民はこの出来事に対してその信仰で答えました。イスラエルに契約を与え、約束を交わした一方で、神はイスラエルが守らなければならない条件をいくつか提示しました。これが神がモーセに現した

律法です。この律法である十戒は、人々がキリストの到来に備えるための第一段階です。十戒はすべての人の良心に与えられた光であり、神の招きと神への道を理解し、悪から身を守るためのものです。律法は神聖かつ霊的で、良いものですが、しかしまだ不完全なものです。教師のように何をなすべきかを示しますが、完結させるために、それ自体で力や聖霊の恵みを与えることはありません。罪を取り除くことのできないため、拘束するだけの法に留まっているのです。聖パウロは、律法の持つその特異な役割は、人間の心の中の欲望によって成る罪を非難し、あばくことにある、と言っています。しかし、律法は完結へ向かう道の第一段階に留まります。律法は、選ばれた民とキリスト教徒ひとりひとりを、救い主イエス・キリストによる回心と信仰に向かうように備えさせ、段取りをつけるものなのです。そして律法は、キリストによって完結される罪からの解放がなせる業を、預言し、待ちわびているのです。

キリストが来られたことで、約束の完結はなされました。イエス・キリストご自身が新しい契約とされたのです。

「皆、これを取って食べなさい。これはわたしのからだである。」イエスはぶどう酒の入った杯を取り、感謝をささげ、弟子に与えて仰せになりました。「これはわたしの血の杯、あなたがたと多くの人のために流されて罪のゆるしとなる新しい永遠の契約の血である。」このことから、イエスがご自身を新しい契約と見なされたことがはっきりしています。新しい契約による約束はイエスの血によって完結されました。そしてこの契約によって、人間の心は変貌をとげ、神の霊を受けることができるのです。

キリストの誕生と死は、一時的には過越しの生け贄であり、契約のいけにえ、そして罪のあがないのための生け贄でしたが、それは旧約の全体像を完結へと導くものとなるのです。信仰を得て、ご聖体をいただくことによって、信徒は新しい契約の神秘と心の底から一つになることができ、神の恵みを受けることができるのです。ですから、キリストを信じることで救いを得ることができるのであって、単に律法を守ることで得られるものではありません。神が無償で定められた救いの計画の約束、つまり見返りを求めない贈り物としてのキリストに、旧約それ自体が組み込まれたのです。旧約が新約で完結したことは明白です。新しい契約で罪は取り除かれました。神は人々の間に住まわれています。神は人の心を変えられ、その中に神の霊を入れられました。このように、契約はもはや文字によってあるのではなく、神の子の自由をもたらす霊によってあるのです。私たちには割礼の儀式はもう必要とされません。割礼は洗礼の一つの形だからです。洗礼によって私たちは信仰を授かるのです。信仰が、ご自身を現された神への人からの無償の返答であれば、それは人としての行為であるといえます。日々この心の割礼によってキリストの恵みは私たちの内で勝利し、キリストの命が私たちの魂の中でますます現実のものとなります。今日のミサでは、イエスが律法に従うことで、御父のご意志に謙虚に服従されたことが示されています。これは、私たちが神のご意志に従順になるようにとの招きなのです。



年の初めに人々はたびたび、すぐ忘れてしまうか、負担となってしまうような、現実的でない新年の決意をします。私たちはイエスを日々の生活の中に招き入れるほうがよいのではないのでしょうか。なぜなら、私たちの中でイエスが人となられたことを私たちは知っているからです。

マリア様に私たちの信仰の旅に同行して下さるようお願いしましょう。マリア様はその生涯を通じて信仰の従順さを完全な形で体現された方なのですから。

みなさん、神様が望まれ、許して下さることすべてを受け入れられるよう、いえむしろ勇気をもっていつでもそれに応じられるよう、心の準備をしましょう。そして神のご意志の中にもこそ、私たちが神の平和を見いだせることを確信しましょう。 アーメン

